

## 紫斑病やマメシクイガの適期防除を！



### 1 現在の生育

○7月31日現在の生育は、主茎長が46.5cm(平年比132%)、葉数が10.2葉(同差+1.4葉)、分枝の発生数は1.2本/個体(同差-0.2本/個体)となっています。

○気温が高めに推移しているため主茎長は長く、葉数の展開は早いものの、6月下旬からの降雨によりほとんどのほ場で葉色は淡く、下位葉の黄化・脱落がみられています。水分ストレスにより、茎の伸長や葉の展開等が抑制されているほ場もみられています。

○管内の開花盛期は7月31日(平年より3日早い)となっています。

○生育調査結果(7月31日現在)

	主茎長 (cm)	葉数 (葉)	分枝数 (本/個体)
R 6	46.5	10.2	1.2
R 5	36.3	10.4	3.5
平年	35.3	8.8	1.4
平年比	132%	+1.4	-0.2

管内5カ所平均値。

### 2 大雨による冠水・浸水被害に対する技術対策

#### 【排水路の点検】

○明きょや排水などの点検を行い、溝が崩れていたり浅くて流れない場所があれば、手直しをする等、早めに補修し、速やかに排水が図れるようにします。

#### 【病虫害防除】

○浸冠水したほ場は、土壌の酸素不足により根の活動抑制や根腐れ症状の発生が懸念されます。特に、茎疫病の発生が多くなるため、こまめなほ場巡回により発病株の除去に努めます。

### 3 中耕・培土

○最終の中耕・培土は、基本的には開花期前までに終了します。開花期後の作業は、花落ちや断根による生育停滞の原因になるため、行わないようにします。畦間等の雑草対策は、**6 除草対策**を参考にしてください。

### 4 開花期追肥

○水田転換初年目や地力の高いほ場では必要ありませんが、長期にわたり大豆の連作を行っているほ場や、湿害により生育不良となったほ場では、開花期の追肥により増収効果が期待できます。

○追肥は、開花期から開花10日後に実施し、硫安または尿素を窒素成分量で10a当たり5~10kg施用します。

### 5 開花後の高温対策

○大豆は開花~子実肥大期にかけて水分を多く必要とし、乾燥が続くと減収することがあるため、天候やほ場状況に応じて畦間かん水や明きょへのかん水を検討します。

○土壌水分保持のため、暗きょ栓を閉めます。ただし、まとまった降雨がある場合は、暗きょ栓を開いて排水を図ります。

#### 【畦間かん水】

- 畦間かん水の目安は、晴天が1週間以上続き土が白く乾燥している場合や、日中に大豆の葉が立ち、半分以上の葉で裏面が見える等を目安に実施してください。
- 30 a以上の大きなほ場の場合は、ほ場を2～3区画程度に分け、1日1区画ずつ2～3日に分けて実施し、畦の崩壊と水口付近の湿害を防ぎます。ほ場（区画）全体に水が行き渡ったら水口をしっかりと止め、速やかに排水を行います。なお、かん水は、気温・地温が低下する朝夕の時間帯に行います。
- ただし、十分な水量が確保できない場合や水回りの悪いほ場、速やかな排水が行えないほ場では、湿害等が発生する場合がありますため実施しません。

**【明きよへのかん水】**

- 排水口を閉じ、明きよ全体に水を行き渡らせ、その後は速やかに排水します。

**【地下かんがいシステムが備わっているほ場】**

- 暗きよを閉めて地下水位を40cmに設定し、降雨を土壤に貯留するように努めます。
- 地下かんがいは、晴天が1週間以上続き土が白く乾燥している場合や、日中に大豆の葉が立ち、半分以上の葉で裏面が見える等を目安に実施してください。このときの地下水位は20～30cm程度に設定し、1日給水した後に暗きよ栓を解放して排水します。

**6 除草対策**

中耕・培土で雑草を抑えられなかった場合は、大豆生育期処理除草剤により雑草防除を行います。薬剤によって使用時期等が異なるため使用基準を遵守し、適期に防除します。

	農薬名	使用時期及び 使用薬量 (/10 a)	希釈水量 (L/10 a)
畦間処理	大豆バサグラン液剤*	だいた生育期 収穫45日前 300～500 mL	100
	ザクサ液剤	だいた8葉期～収穫28日前 300～500 mL	100～150
	ラウンドアップマックスロード	だいた8葉期～収穫前日 200～500 mL	25～50
畦間・株間処理	バスタ液剤	だいた6葉期～収穫28日前 300～500 mL	100～150
雑草茎葉兼土壌散布 (畦間・株間処理)	ロロックス	だいた3葉期～収穫30日前 100～200 g	70～150
雑草茎葉塗布	タッチダウン i Q	生育期、収穫7日前 0.1 mLを1～3か所/株	2倍希釈

※適用品種はリュウホウとする。

注：畦間及び畦間・株間処理では、薬害防止のため専用の飛散防止カバーや専用ノズルを使用します。

**7 病害虫対策**

- 気温が高くなると害虫の発生が増加する傾向にあります。東北地方1ヶ月予報（仙台管区気象台8月1日発表）では気温は高いと予想されているため、今後の病害虫の発生状況に注意し、ほ場をよく観察してください。

**【食葉性鱗翅目幼虫】**

**①ハスモンヨトウ**

- 病害虫防除所から防除対策情報（7月17日）が出ております。

表-1 ハスモンヨトウの防除薬剤

農薬名	使用量又は希釈倍数 (散布液量)	散布時期
トレボン粉剤DL	4kg/10a	7月～ 9月上旬
アタブロン乳剤	2,000倍	
エルサン乳剤	1,000倍	
カスケード乳剤	4,000倍	
グレーシア乳剤	2,000～3,000倍	
トレボン乳剤・EW	1,000倍	
ノーモルト乳剤	2,000倍	
パーマチオン水和剤	2,000～3,000倍	
プレバソフフロアブル5	4,000倍	
ヨーバルフロアブル	5,000～10,000倍	

※ パーマチオン水和剤の8月下～9月上旬散布はマメシクイガ、8月中～下旬散布はカメムシ類にも有効である。

※ ジアミド系の一部薬剤に感受性が疑われる事例があるため、使用薬剤の選定に注意する。

○秋田市等でハスモンヨトウの多くの飛来が確認されています。今後、幼虫による加害が増加するおそれがあるため、ほ場の観察により早期発見に努め、発生状況に応じて防除してください。

## ②ツメクサガ

○令和6年7月30日発表の農作物病虫害発生予察情報では、食葉性鱗翅目幼虫(ツメクサガ等)の発生は多いと予想されています。  
○管内でも発生が多く、食害がみられています。今後の薬剤による防除は、8月上旬から中旬にエルサン乳剤1,000倍、トレボン乳剤1,000倍、フェニックスフロアブル4,000倍液を100～300 L/10 a散布します。



ツメクサガ幼虫(7/31確認)

表-2 紫斑病の防除薬剤

### 【紫斑病】

○病虫害発生予察情報(7月30日)によると、紫斑病の感染時期はやや早く、感染量は多いと予想されています。

○開花状況を確認し、開花期20～30日後までに薬剤散布を行ってください(管内開花盛期:7月31日)。

○開花が早いほ場は、マメシクイガとの同時防除で効果が劣る可能性がありますので、紫斑病とマメシクイガの防除はそれぞれ適期に行ってください。

○アミスター20フロアブルは、県内で耐性菌の発生が確認されています。薬効低下の恐れのあるほ場では使用を避けてください。

農薬名	使用量又は希釈倍数 (散布液量)		散布時期及び回数
ジマンダイセン水和剤	400倍	150～300L /10a	1～2回(1回防除が基本で着莢期に降雨が多い場合は2回防除)  1回目:開花期20～30日後 2回目:1回目の約10日後
ペンコゼブ水和剤			
トライフロアブル	1,000倍		
ニマイパー水和剤	1,000～2,000倍		
プランダム乳剤25	3,000～5,000倍		
Zボルドー	500倍		
Zボルドー粉剤DL	3kg/10a		

(注意事項)

- ①ニマイパー水和剤、プランダム乳剤25は耐性菌出現回避のため、各1回の使用とする。
- ②薬剤は莢によく付着するように散布する。
- ③ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は使用時期に注意する(収穫45日前)。

### 【マメシクイガ】

○病虫害発生予察情報(7月28日)によると、マメシクイガの発生時期は平年並で、発生量は多いと予想されています。

○成虫は8月20日頃から確認され、9月始めに発生ピークを迎えます。表面に産卵し、ふ化した幼虫が莢内に食入しクチカケ豆を作ります。薬剤は莢に十分付着するように散布します。

表-3 マメシクイガの防除薬剤

農薬名	使用量又は希釈倍数 (散布液量)		散布時期及び回数
トレボン粉剤DL	4kg/10a		アグロスリン乳剤、 アディオオン乳剤、 パーマチオン水和剤 8月下旬～9月上旬(1回)  他の薬剤 9月上旬(1～2回)
アグロスリン乳剤	2,000倍	150～300L /10a	
アディオオン乳剤	3,000倍		
エルサン乳剤	1,000倍		
グレーシア乳剤	2,000～3,000倍		
スミチオン乳剤	1,000倍		
トレボン乳剤・EW	1,000倍		
パーマチオン水和剤	2,000～3,000倍		
プレバソフロアブル5	4,000倍		

※アグロスリン乳剤、パーマチオン水和剤はカメムシ類にも有効である。

**農作業中に熱中症になる人が増えています。予防対策を十分に行い、熱中症を防ぎましょう。**

\*内容についてのお問い合わせは、農業振興普及課(Tel 0186-62-1835)へご連絡下さい。